

自然博物館
ニュース

A・MUSEUM

ア・ミュージアム

vol.6



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



皇太子同妃両殿下が御来館

10月23日（月）から開催した第6回世界湖沼会議の開会式に御出席のため、来県された皇太子殿下御夫妻が、この日の午後、当館を視察されました。

沿道には、おふたりの姿をひと目みようとして4千人あまりの人がつめかけました。おふたりの車がお見えになると旗を振ったり、「雅子さま」と声をかけたりとその熱烈な歓迎に、皇太子さまと雅子さまはにこやかに手をふられそれにこたえられました。

館内では、中川館長の案内でシンボルの松花江マンモス、ヌオエロサウルスや〈地球の生いたち〉、〈自然のしくみ〉などの各展示室を御覧になりました。

菅生沼が見渡せるバードウォッチングカフェで、皇太子殿下が備え付けのフィールドスコープで野鳥を御覧になった際、御自分で見ていたものを雅子さまに勧めてお見せするなど、仲むつまじいご様子を随所でみせられました。

また企画展示室では、「児童生徒科学研究作品展」を御覧になり、知事賞の小学生の部、中学生の部に輝いた稲敷郡阿見町立舟島小学校3年の湯原聡美さんと稲敷郡江戸崎中学校2年の木野内初江さんから、それぞれの研究の説明を受けられ、「りっぱな研究ができてよかったですね」「これからもがんばってください」と話されました。



第5回企画展

菅生沼の自然-1996
Nature of SUGAO Marsh-1996

1996年1月13日(土)~2月12日(月)

総面積232haに及ぶ茨城県最大の自然環境保全地域「菅生沼」は、アカメヤナギ、ヨシ、マコモが茂り、冬期には数千羽のカモ類とともに数百羽のコハクチョウが飛来、越冬するすばらしい自然に恵まれたところだ。

最終氷期に侵食された谷に縄文の海が入り、その海が退くとともに利根川の運ぶ土砂で出口をふさがれ形成された菅生沼も近年急速に水域が減少し湿地乾燥化が進行しています。

現在、自然博物館では、菅生沼の豊かな自然をいかに守っていくかをテーマに平成6年度から調査を進めているところです。今回の企画展は、この調査の成果を段階をおって発表する第1回目として開催いたします。

この企画展が、多くの皆さまとともに自然のすばらしさ大切さについて考えてゆく契機となれば幸いです。



菅生沼

展示内容

第一部「菅生沼の姿」

沼の地理的環境や水質等の菅生沼のプロフィールについて紹介します。

第二部「菅生沼の生いたち」

貝、有孔虫、珪藻、花粉等の化石資料及び博物館建設時に発掘された縄文遺跡の出土資料、さらに人々の生活と沼との密接な関わりを物語る民俗資料により約

13万年前頃から現在に至るまでの菅生沼周辺の地理的環境や気候的な環境の移り変わりそして人と沼との関わりについて紹介します。

第三部「菅生沼の生きものたち」

哺乳類、鳥類、魚類の剥製資料、昆虫資料、プランクトン等の拡大模型及び植物のアクリル封入資料、レプリカ資料等

により沼域、湿地、斜面及び台地でのそれらの関わり合いのようすを紹介いたします。また、菅生沼周辺で観察される希少種植物についても紹介します。

第四部「これからの菅生沼」

空中写真により沼の過去50年間の水域の移り変わりと植生の移り変わりととの関係を紹介いたします。また、20年間の水質の変化のようすも紹介します。

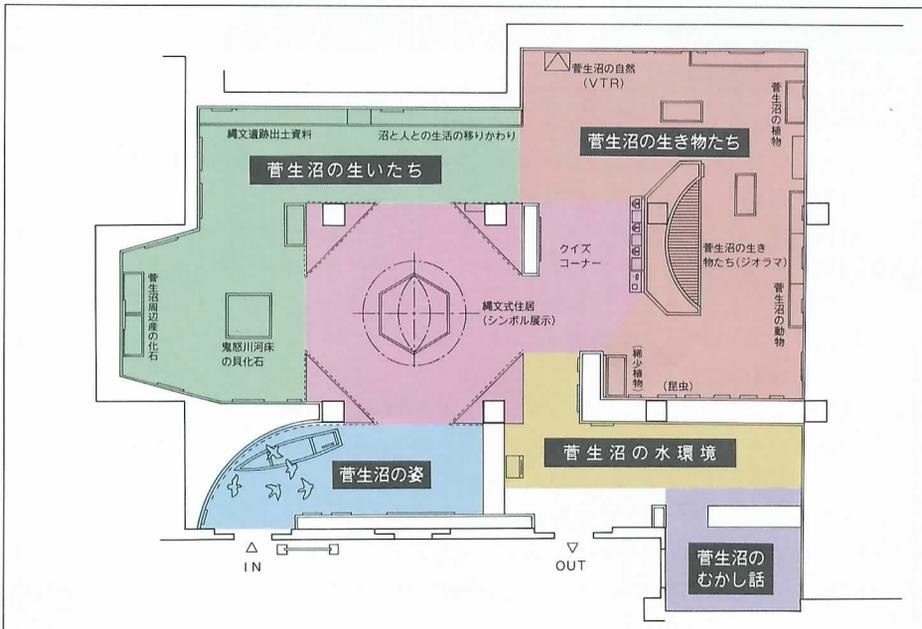


上：花粉化石 (Pinus. : マツの一種)
左：コハクチョウ

鳥の鳴き声や虫の声、部分拡大写真、顕微鏡観察等によるクイズコーナー「私はだーれ？」や菅生沼に伝わるむかし話のコーナーもあります。



アカメヤナギ



- 開館時間 9時30分~17時
(入館は16時30分まで)
 - 休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)
 - 入場料 小・中学生 120円(60円)
高校・大学生 360円(240円)
一般 600円(480円)
- ※ () 内は20名以上の団体料金

研究ノート◎菅生沼および周辺の自然(5)



上：ミソコウジュ
左：ミズニラ



チョウジソウ

今年の5月より10月にかけて、植物研究室では菅生沼およびその周辺を踏査し、そこに生育する植物の種類や植物群落のようすについて記録しました。この成果については、1月13日(土)からの第5回企画展「菅生沼の自然」で詳しく発表する予定ですので、ぜひご覧いただきたいと思ひます。ところで、この調査によってレッド・データ・ブック(日本の絶滅危惧植物)において危急種に指定されている植物が7種確認されました。これらの植物について紹介していきたいと思ひます。

ミズニラ

本種は、当博物館野外のとんぼの池で発見されました。その名のとおりニラのような葉をしていますが、シダの仲間です。水田などの水湿地に生え、かつては救荒食に利用されたほど普通に見られましたが、現在は耕地整理などの影響でその生育地が激減しています。

ミソコウジュ

河川敷や水田のあぜなどの湿ったところに生育する越年草で、植生が何らかの原因で攪乱され他の植物があまり生えていないような場所を好みます。菅生沼でも、博物館の近くの人為的に草刈りがなされているところに最も多くみられます。



タチスミレ

菅生沼周辺では個体数もそれほど少なくはありませんが、人里の湿地が開発等で失われている現状を考えると、注意深く見守っていくことが必要です。

チョウジソウ

水辺の湿った場所に生える多年草で、5月頃青藍色の花をつけます。菅生沼では本年の調査において初めて2カ所の自生地を確認しました。いずれの自生地でも、30個体ほどが認められ、生育状況も良好です。もともと限られた場所に点々と分布する植物であるうえに、河川改修などにより自生地も減少しており、大切に保護していかなければならない植物の一つです。

ハナムグラ

水辺の日当たりのよい湿った草地に生える多年草です。菅生沼では生育地・個体数ともかなり多く、とても危急種とは思えないほどです。しかし、全国的な分布状況を見ると、かなり限られており、分布が確認されているのはわずか8つの県にすぎません。細くよなよとした草で、莖に下向きのとげのような毛があります。葉は4~6輪生し、5月頃2mmほどの芳香のある小さな白色の花を多数つけます。河川改修などにより、自生地は減少しつつあります。



タコノアシ

タチスミレ

水辺のアシ原や湿った草原に生える多年草で、他の草によりかかるようにして伸びます。日本一背の高いスミレで、周りの草が高いと1mにもなります。菅生沼ではわずかに1カ所だけ自生地が確認されており、20個体ほどが群落をなしています。現在は河川敷の開発などで自生地が消失しつつあり、県内でもここを含めて数カ所しかなく、個体数もそれほど多くありません。

ミズアオイ

湖沼や休耕田に見られる大型の一年草で、夏から秋にかけて青紫色の花を咲かせ、水辺を飾ります。県内では霞ヶ浦周辺のハス田などでかなりまとまって生育しているのを見ることができますが、菅生沼においてはたった1カ所しか見られず、個体数もわずかです。この美しい花がいつまでも見られるように、豊かな水辺環境を維持していきたいものです。

タコノアシ

河川敷、湖岸などに生える多年草です。菅生沼における生育地はわずか2カ所だけで、個体数もほんのわずかです。「蛸の足」というユーモラスな名前は、花序の枝に多数の花がならんでついた様がタコの足のように見えることからきています。このような親しみのある人里の植物がだんだん消えていくのは大変さびしいことです。(教育課：飯田)

参考文献

日本植物分類学会編 レッド・データ・ブック
日本の絶滅危惧植物 農村文化社

展示室紹介◎ディスカバリープレイス (DP)

茨城の自然と特色を紹介する「部門展示」として、ディスカバリープレイスがあります。

ここでは、茨城の大地の生い立ちを物語る化石や岩石、豊かな大地に生きるさまざまな動物・植物を展示するとともに、各種の

自然情報機器や実験・実習機器を備えることにより、茨城の自然の発見・学習の場としての機能を図っています。

また、図書室やスタディールーム、講座室等もあり、自然情報ステーション及び理科教育センターとしての機能も有しています。

展示項目一覧

茨城の特徴的な自然

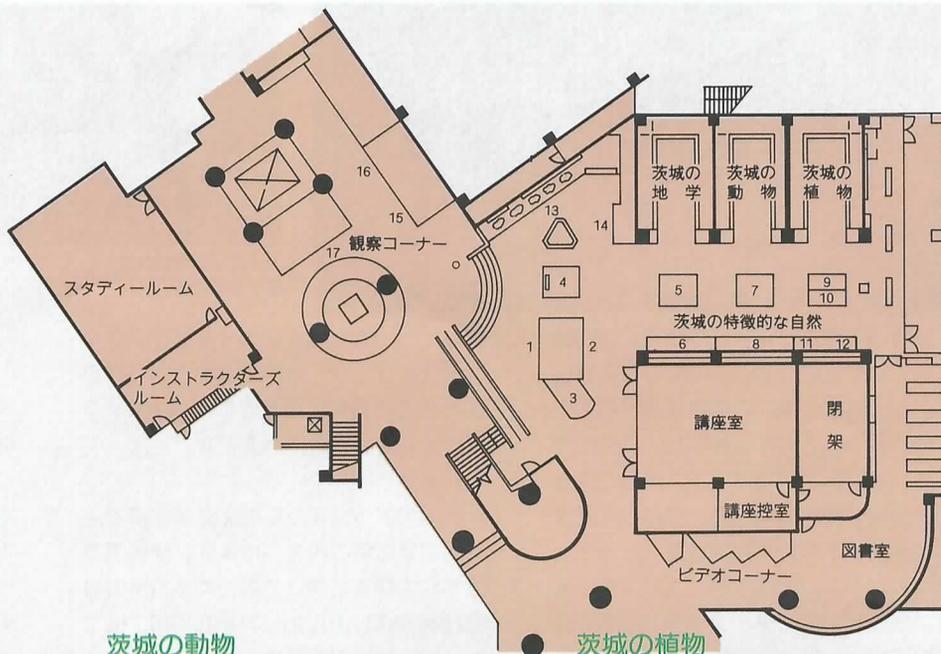
1. 茨城インフォメーションマップ
2. 菅生沼ウォッチング
3. 茨城のナウマンソウ
(全身骨格復元標本と実物化石)
4. リチウムペグマタイト
5. 筑波山周辺の地質
6. 筑波山周辺の地質とその生いたち
7. 筑波山の植生
8. 筑波山の生き物たち
9. 筑波の帰化生物
10. 茨城で最初に発見された生物
11. 南限・北限の生物
12. 茨城の天然記念物
13. 茨城の大地(地層・化石・岩石)
14. 茨城の大地の生いたち(映像)

観察コーナー

15. サイバースコープ
16. バイオスキャナー
17. 走査電子顕微鏡

茨城の地学

茨城の化石 茨城の地形 茨城の地層 茨城の気象 茨城の岩石・鉱物 茨城の地下資源

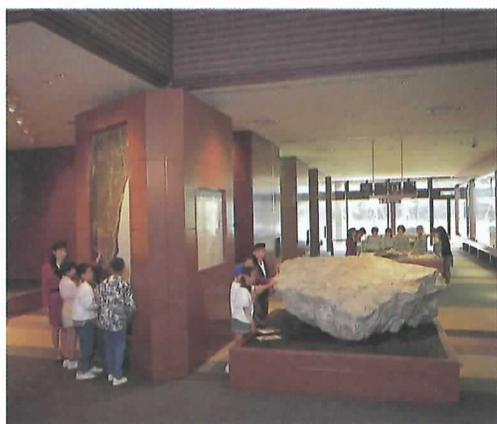


茨城の動物

原生動物 海綿動物 腔腸動物
 扁形動物 細形動物 袋形動物
 毛顎動物 環形動物 軟体動物
 棘索動物 触手動物 節足動物
 棘皮動物
 脊椎動物(魚類 両生類 爬虫類 鳥類 哺乳類)

茨城の植物

細菌類 ラン藻類 変形菌 真菌類
 地衣類 紅藻類 褐藻類
 黄金色藻類 ウズベン毛藻類
 水辺の植物 ミドリムシ類
 緑藻類 車軸藻類 コケ植物
 シダ植物 裸子植物 被子植物



展示室

県内に生息する動物、植物、県内産の岩石・鉱物など茨城の自然を網羅した実物標本を展示し、豊かな自然と特色を紹介しています。



筑波山の生きものたち



筑波山の植生



インストラクターズルーム

団体の事前申込み、催し物の受付・案内、相談等を行っています。



スタディールーム

サンデーサイエンスとして毎月テーマを決め、体験することに重点をおいた実験や観察、工作などを実施しています。



観察コーナー
 マイクロスコープや走査電子顕微鏡などの観察機器を備え、実験や生き物などの観察ができます。



図書室・ビデオコーナー

自然関係の一般書や専門書が整備されています。また、自然関係のVTRもたくさん用意されています。いつでも見られます。

歳時記●霜柱

冬の朝。家を出ると、刺すような空気の中に白い息がたなびきます。足元からは心地よい感触とともに『ザクッ、ザクッ』という深い音が流れてきて、思わず心が引き締まります。

寒い冬の季節、水はいつもとは違う姿になります。バケツの中の水には氷が張り、軒下の水の滴は氷柱を作り、空気中の水蒸気は枯れ葉の上に霜を降らせ、そして、足元の土の中からは霜柱が顔を覗かせています。

冬になり、地表面の温度が0℃以下になると、土の中の水は凍り始めます。しかし、霜柱は寒くなればどこでもできるというわけではありません。普通に土の中の水がその場で凍っても体積の増加分は少ないので、地表は持ち上がりません。霜柱は地表付近が氷点下になり、水が凍ると共に周囲の土の水が地表付近に引き寄せられ、柱状に凍っていく現象です。このような水の凍り方を『氷晶分離凍結現象』といいます。

霜柱はどのようなところで出来易いのでしょうか。一般には、粒の大きい砂地



や非常に細かい粘土地では霜柱は出来にくいことが知られています。粒が小さいと凍結面への水分の補給がしにくくなり、反対に隙間が大きすぎると周囲と凍結面との温度差が出来にくくなります。ところが、私たちの身の回りにある赤土（関東ローム層）は程良い粒の大きさをしていて、しばしば見事な霜柱を作ります。

また、周囲に適度に水が供給されれば、

霜柱は著しく成長することがあります。北海道の温泉地においては、地面の放射冷却により一晩のうちに霜柱が50cm以上も成長することもあるそうです。皆さんもときどき山間部の沢沿いなどを歩き、しばしば見られる10cmを越えるような自然の芸術に触れてみてはいかがでしょうか。

（資料課：小池）

収蔵品紹介●オオマリコケムシ

(*Pectinatella magnifica*)

触手動物門 コケムシ綱 捲喉目 オオマリコケムシ科



写真1 水海道市吉野公園の池に出現した塊

しばしば池や沼で巨大な群体塊を作り、世間を騒がすこともあるオオマリコケムシ。かつては、北アメリカ東部と中央ヨーロッパにのみ分布しましたが、日本でも1972年（昭和47年）に山梨県の河口湖で発見されて以来、全国各地の池や沼で相次いで確認されるようになりました。県内でも、水海道市吉野公園の池に大量発生するなど、いくつかの報告があります。（写真1）本館の収蔵品は、1992年につくば市四ツ谷のため池で発見されたものです（写真2）。

オオマリコケムシの群体塊は、1.5ミリほどの個虫から成る群体（写真3）が多数集まり、寒天質を分泌して形成されます。この塊は通常、岩や船底などに付着していますが、時には付着基から剥がれてクラゲ

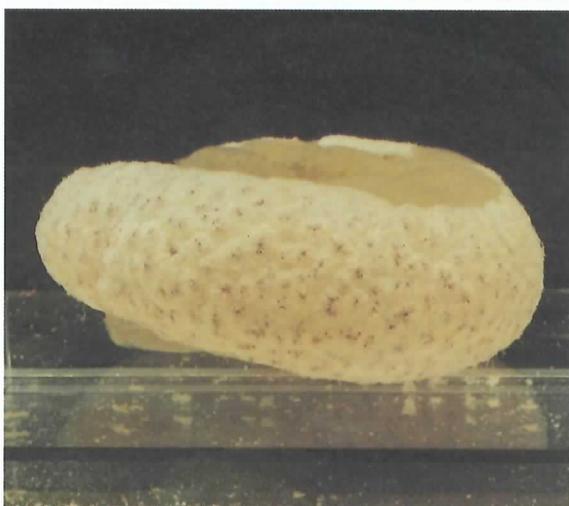


写真2 オオマリコケムシの液浸標本

のように水面に浮上することもあります。よく発達した浮上群体塊になると、畳一枚分の大きさにまで成長します。

夏になると、群体は有性生殖によって幼生を生産する一方で、スタトプラストという休芽（写真4）を多数形成するようになります。群体から放出された休芽は越冬した後、春先に一斉に発芽します。

オオマリコケムシの休芽は、殻のまわりにいかり状の棘を持ち、乾燥や低温などの外界の厳しい環境の変化にもよく耐えることができます。現在のオオマリコケムシの広範囲にわたる分布は人間や船、渡り鳥などによって休芽が遠方まで運ばれた結果だと考えられています。このように、休芽は種の分布を拡大するのに大いに役立っているようです。

（資料課：池澤）



写真3 群体（織田秀実氏撮影）

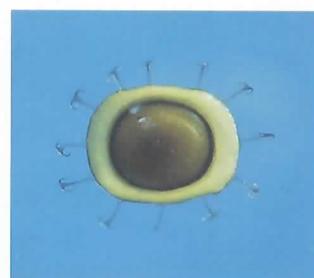


写真4 休芽

レポート●ミュージアムコンパニオン (MC)

皆様、こんにちは。私たちは、茨城県自然博物館のミュージアムコンパニオンです。現在、21名の仲間が活躍しています。

コンパニオンの主な仕事は展示解説です。毎日3回(10:00、13:00、15:00)ガイドツアーを実施しています。ツアーの内容は、お客様に1時間15分程度の時間で各展示室の見どころや展示物を紹介するもの。予約は必要ありません。どなたでも自由にご参加いただけます。

また、展示室において、展示に関する質問や相談を受けたり、展示物の管理や施設の案内をしております。時には、展示に詳しいお客様から専門的な知識を要求されることもあります。頼もしい学芸員の先生方が、迅速な対応をしてくださいます。疑問点がございましたら、ご遠慮なくどんどんお尋ね下さい。

当館も1周年を迎え、何度でも来館下さる方にも楽しんで戴ける様にスポット解説を研究中です。さらに、手話サークルやMC自主研修会への参加など、飽く無き探求心も健在です。

この他には、団体受付や総合案内、野外発券所での発券、改札



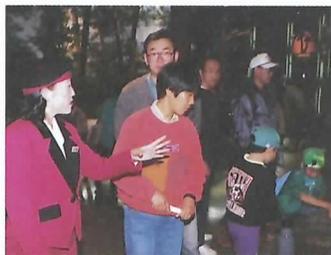
業務、ベビーカー・車椅子の貸出し(お気軽にお声をお掛け下さい)、迷子のお客様の放送などと多岐にわたっております。特に気を遣うのは、小さな迷子さんです。子供たちは、健気にお父様、お母様が来るのを待っています。その心中は察して有りもの。お迎えの際には、どうぞしっかり抱きしめてあげて下さい。コンパニオンも博物館に悲しい思い出を残さないように精一杯明るく接しています。

にっこり笑ってもうひとつお願いがあります。展示物への影響を考慮し、館内ではフラッシュを使っての写真撮影、アメやガムを含むご飲食はご遠慮いただいております。ご協力をお願いいたします。

さて、最後にコンパニオンの素顔とは申しますと、分刻みの忙しい業務内容ではありますが、休憩、休日には和気あいあいと過ごしております。笑顔をもっととする職業柄、日頃から楽しい雰囲気や伝わるような心がけております。

習い事は、お茶やお花にとどまらず、お琴にピアノ、スポーツ全般。着付けや編物教室を開ける人がいるなど、多種・多彩です。ただ今、恋人募集中のコンパニオンも多し。ぜひ、おすすめします。こんな私たちがお迎えいたします。いつでも、何度でも来館下さい。お待ちしております。

(MC: 広瀬(由))



ガイドツアー



インフォメーション



改札



迷子の世話

コラム by director NAKAGAWA ◎タッチコーナー

10月23日の午後、皇太子さまと雅子さまが博物館を御訪問になられ、私が御先導の役をつとめました。とても緊張していたのですが、おふたりのやさしい雰囲気いつの間にか心の硬さもとれ、大事なくつとめを果たすことができました。



印象的だったのは第3展示室[自然のしくみ]の山地林ジオラマに入る直前、哺乳動物のタッチコーナーを御覧になった時のことです。

「ホントに柔らかくてあたたかいですね。」

ケースのホールから手を差し入れられキツネの剝製にお触れになった殿下が妃殿下の方を振り返られて声をかけられたのです。

「ホントに……。」

妃殿下もホールから手を差し入れられ、そっとキツネの背中をなでられてほほえみました。御先導のシナリオにはない突然のハプニングでしたが、おふたりの心の絆を拝察したような気がして、私まで心があたたかくなったのでした――。

スポット◎石下町地域交流センター

豊田城は、正平年中(1346~1370)に、この地方を治めていた豊田氏が小貝川辺りに築いたとされていますが、天正3年(1575)に廃城となりました。本城跡は、小貝川の河川改修により根拠を絶ってしまいました。当時の城址は、カヤ葺きで川の水を要塞とした城であったろうと思われています。



現在の豊田城は、平成4年10月に鉄筋コンクリート造7階建ての複合施設(ホール、図書室、展示室)地域交流センターとして、豊田氏ゆかりの地に建設されたものです。

3階から6階までが展示室で、明治の歌人であり、また農民文学の代表的小説「土」の作者である長塚節に関する資料や、石下町の歴史や産業などの資料を展示した歴史資料館となっています。

また、7階の展望室からは、約40mの高さから筑波山をはじめ、富士山や日光連山を望むことができます。

トピックス●(9月～11月)



「開館1周年記念事業」

パンダ募金箱設置——自然保護活動に協力 11月12日(日)

開館1周年を記念する事業のひとつとして、WWF（世界自然保護基金）の自然保護活動に協力するため、パンダ募金箱を設置しました。

この日は、エントランスホールで博物館の関係者を招きパンダ募金箱設置の除幕式を行い、博物館友の会の橋本ひろみ会長が募金者第1号として募金を行いました。

この後、パンダ募金箱は自然環境についての展示コーナー（人間と環境）に設置し、募金に協力していただいております。

この他の事業として、来館した方々からの意見や要望をいただく為、ご意見承り箱を恐竜ホールに設置しました。皆様からの声を今後の博物館活動に役立ててまいりたいと思います。

自然観察会

——きのこの観察——

講師に茨城生物の会の平井信秀先生をお迎えし、東茨城郡桂村の御前山で開催しました。

参加者の皆さんは、キノコの生えているポイントや採り方などの説明を受けた後、山の中に入ってきました。

今年は、夏に異常な暑さが続いたためか、キノコが不作の年でしたが、コガネタケやヤマブシタケ、ナラタケなど約40種のキノコが採集できました。

先生がそれらの一つひとつを手に取り説明を始めると、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

10月22日(日)



公民館での移動博物館始まる

10月6日(金)～8日(日)

——生涯学習の推進——

自然博物館までの距離が遠いため、来館が困難な地域の人に博物館を知っていただくとする移動博物館を、久慈郡の里美村公民館で開催しました。

学校を対象にした移動博物館は、平成6年度に2回、今年度は大子町立黒沢小学校で開催していますが、今回は地域の方を対象にしたもので、里美村のご協力により、全戸に移動博物館開催のチラシを配布しました。

開館すると間もなく、近所のやまざくら保育所の園児20名が来館し、キノコや化石、昆虫の標本などをみじの様子で触ったり、のぞき込んだりして、たいへん楽しそうに過ごしておりました。



— 菅生沼から —

教育課 栗栖 宣博



元気に泳ぎ回っていました。コハクチョウは博物館からも観察でき、来館者も、思いがけない出会いに驚きの声をあげていました。

9月下旬にすでに飛来していたコガモは、約300羽に達し、また、オナガガモやマガモも見られ、菅生沼のカモ類はこれからどんどんにぎやかになります。

コハクチョウは、11月4日には45羽になり、これからさらにその数を増やします。例年ですと、約300羽がここで越冬し、3月中旬までその姿が見られます。

冬鳥たちの姿に身近に触れあうことのできるこの季節は、自然のすばらしさに気付くよいチャンスだと思えます。

観察の記録

10月31日、菅生沼に冬の使者コハクチョウの第1陣、10羽が到着しました。その中には、グレーの体にピンクのくちばしの若鳥の姿も見られ、初めての長旅の疲れを感じさせず、

園内（花の谷）のフジバカマの花壇にアサギマダラ〔マダラチョウ科〕が訪れました。10月10日にボランティアの方が見つけ、17日までに計5頭が確認されました。

アサギマダラは山地性ですが、まれに市街地でも見かけることがあります。筑波山塊では年3回ほど発生しています。このチョウはヒヨドリバナやフジバカマの花の蜜を好み、長距離移動をする性質があります。

秋が深まり、南下の渡りの途中で園内に立ち寄ったのかもしれない。



れません。

お住まいの近くで美しいこのチョウを見かけたら、是非情報をお寄せ下さい。

資料を積み重ねれば、生態がもっとはっきりするでしょう。

— 野外の広場から —

資料課 鈴木 成美

インフォメーション(1~3月の行事)

自然教室(定員40名)

- 1月13日(土)10:00~(受付 9:30~)
『菅生沼の冬鳥たち』
 - 2月10日(土)10:00~(受付 9:30~)
『貝化石を調べよう』
 - 3月 9日(土)10:00~(受付 9:30~)
『春の七草を探そう』
- ※[小中学生が対象です]

自然講座(定員40名)

- 1月 7日(日)10:00~(受付 9:30~)
『偏光顕微鏡の世界』
 - 2月 4日(日)10:00~(受付 9:30~)
『アフリカの野生動物と人間』
 - 3月 3日(日)10:00~(受付 9:30~)
『顕微鏡でみる化石の世界』
- ※[高校生以上を対象としています]

自然観察会(定員40名)

- 1月28日(日)10:00~
『冬芽のいろいろ』
集合 自然博物館(8:00)
 - 3月24日(日)10:00~
『地層を読む』(阿見町)
受付 阿見町技研前バス停(9:30~)
- ※[どなたでも参加できます]

[各講座等への申込方法]

事前に電話で申込願います。
ミュージアムパーク 茨城県自然博物館
Tel 0297-38-2000



サンデー・サイエンス

—楽しい体験教室—
月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリープレイス内のスタディールームで実施しています。
観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。
テーマ 1月『手づくり顕微鏡で鉱物を見てみよう』
2月『紙をつくってみよう』
3月『カイコのまゆで人形をつくろう』
時間 午前の部 10:30~12:00
午後の部 14:00~15:30
受付 開始時間の20分前から、スタディールームの前で行います。

えいが会(定員約300名) [講堂・映像ホール]

- 1月21日(日)『大自然の驚異』
 - 2月18日(日)『銀河鉄道の夜』
 - 3月17日(日)『子猫物語』
- 上映時間 14:00~、入場無料

なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。
相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

相談日 1月14日(日)
2月11日(日)
3月10日(日)
場所 ディスカバリープレイス観察カウンター
時間 14:00~16:00

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
小・中学生	100円(50円)	50円(30円)
高校・大学生	300円(200円)	100円(50円)
大人	500円(400円)	200円(100円)

(注)：()内は団体料金(20人以上)
企画展開催期間中については別料金となります。

- 次の日の入館料は無料です。
● 3月20日(春分の日) ● 4月29日(みどりの日)
● 6月5日(環境の日) ● 11月13日(茨城県民の日)
午前9時30分から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
● 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
● 12月27日から1月4日まで
● 平成8年2月19日(月)から2月28日(水)までの10日間は、くん蒸期間の為、臨時休館致します。

[開館時間]

[休館日]

- [鉄道・バス]
(水戸・東京方面から常磐線利用の場合)
(東武野田線) (茨城急行) (徒歩)
JR柏駅 24分 愛宕駅 20分 自然博物館入口 10分 博物館 (54分)
(常総線) (関鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
JR取手駅 30分 水海道駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 博物館 (1時間10分)
(笠間・下館・結城方面から水戸線利用の場合)
(常総線) (関鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
JR下館駅 55分 水海道駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 博物館 (1時間35分)

■は休館日です。

1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6	1 2 3	1 2
7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10	3 4 5 6 7 8 9
14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	10 11 12 13 14 15 16
21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	17 18 19 20 21 22 23
28 29 30 31	25 26 27 28 29	24 25 26 27 28 29 30
		31

[交通案内]



[編集後記]

皆様からのご協力、お力添えにより11月13日にめでたく開館1周年を迎えることができました。1年間で延べ836,605名

(11/12現在)の方にご利用いただきました。入館者を対象にしたアンケートによると、この中には開館からすでに10回以上も来館されている方もいます。

これからもより親しめる博物館をめざし、さらに努力していきたいと考えておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。(T.S)